

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年10月30日
【四半期会計期間】	第32期第2四半期（自 2020年6月21日 至 2020年9月20日）
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	A D J U V A N T C O S M E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松井 健二
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3136
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第2四半期連結 累計期間	第32期 第2四半期連結 累計期間	第31期
会計期間	自 2019年3月21日 至 2019年9月20日	自 2020年3月21日 至 2020年9月20日	自 2019年3月21日 至 2020年3月20日
売上高 (千円)	2,205,298	2,195,553	4,674,081
経常利益又は経常損失( ) (千円)	218,883	7,852	157,692
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( ) (千円)	200,322	94,203	227,928
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	203,544	92,148	239,066
純資産額 (千円)	4,159,502	3,852,614	4,123,980
総資産額 (千円)	5,383,684	5,077,179	5,250,788
1株当たり四半期(当期)純損失( ) (円)	25.17	11.80	28.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.3	75.9	78.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	320,422	149,285	32,227
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	170,079	60,883	181,291
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	203,926	195,248	220,406
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,122,834	1,062,695	1,472,313

回次	第31期 第2四半期 連結会計期間	第32期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年6月21日 至 2019年9月20日	自 2020年6月21日 至 2020年9月20日
1株当たり四半期純損失( ) (円)	7.52	11.13

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当社の連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックは、2020年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による社会経済活動の自粛により消費が大幅に落ち込んでおり、依然として厳しい状況にありました。政府によるG T キャンペーンなどの政策の推進により経済活動の再開が段階的に進められており、持ち直しの動きがみられますが、引き続き国内外の感染症の動向に留意が必要な状況です。

美容業界におきましても、緊急事態宣言発令によるサロン<sup>注1</sup>の営業制限から徐々に営業を再開したものの、来店客数の減少の影響もあり、当社商品を販売するアジュバンサロン<sup>注2</sup>においても同様の影響がありました。

このような状況のもと、当社グループは、2021年3月期の営業テーマを「顧客の創造・関係性の強化」とし、営業方針を「年間販促計画の策定と実行」「カウンセリングの知識・技術の習得」「アフターフォローの習慣化」「顧客分析の徹底」として掲げ、サロンの安定した経営サポートを目指しております。新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止に関しては、当社が定めた「新型コロナウイルスに関する指針」を遵守し、感染拡大の防止に十分注意しながら営業活動を行っております。

また、国立研究開発法人理化学研究所との共同基礎研究により毛髪と頭皮に関する機能性成分を見出し、その後自社にて処方した新ヘアケアブランド「KASUI(カスイ)」と毛髪の内部補修により扱いやすい髪質へ近づけるシステムトリートメント「Jalire(ジャリル)」を10月1日より発売する為、販促活動に取り組んでおりました。

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,195百万円(前年同期比0.4%減)となりました。詳細は区別売上高の概要をご参照ください。なお、アジュバンサロン登録軒数につきましては、当第2四半期連結会計期間末で8,036軒(前期末比241軒増)となりました。

利益面では、たな卸資産評価損・廃棄損の減小による売上総利益の改善及び販売促進費や旅費交通費等の減少により、営業損失0百万円(前年同期は営業損失239百万円)、経常利益7百万円(前年同期は経常損失218百万円)となりましたが、特別損失として投資有価証券評価損100百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は94百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失200百万円)となりました。

区別売上高は、売上割戻金を含めて次のとおりであります。

区分	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間		増減額 金額(百万円)	増減率 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)		
スキンケア	897	40.7	764	34.8	133	14.8
ヘアケア	1,112	50.4	1,167	53.2	55	5.0
その他	360	16.4	413	18.8	52	14.5
売上割戻金	165	7.5	150	6.8	15	-
合計	2,205	100.0	2,195	100.0	9	0.4

(注)1. エクシードシステム株式会社(連結子会社)、ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED(連結子会社)の売上高は、「その他」に含んでおります。

2. 売上割戻金は、商品ごとではなく売上高の合計を基準として割戻率を設定しているため、区分ごとに配賦せず合計額で表示しております。

国内海外別売上高は、次のとおりであります。

区分	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間		増減額 金額(百万円)	増減率 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)		
国内売上高	2,090	94.8	2,112	96.2	21	1.0
海外売上高	114	5.2	83	3.8	31	27.4
合計	2,205	100.0	2,195	100.0	9	0.4

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、区分別売上高の概要は以下のとおりであります。

( スキンケア )

スキンケア商品の売上高は、前期リリースした新商品の販売が想定よりも伸び悩んだ結果、計画を下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は764百万円(前年同期比14.8%減)となりました。

( ヘアケア )

ヘアケア商品の売上高は、「Re:»の「クラスSライン」は計画を下回る結果となりましたが、「ベーシックライン」は順調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,167百万円(前年同期比5.0%増)となりました。

( その他 )

エクシードシステム株式会社(連結子会社)の売上高は、国内のサロンアンサーシステム<sup>注3</sup>の導入件数が、当第2四半期連結会計期間末において1,207件と順調に推移した結果、増加いたしました。

ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED(連結子会社)の海外売上高は、香港で続いている抗議活動と新型コロナウイルス感染症の影響に伴い減少しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は413百万円(前年同期比14.5%増)となりました。

注1「サロン」

理美容室・エステティックサロン・ネイルサロン・アイラッシュサロン・美容クリニック等を指します。

注2「アジュバンサロン」

初回に100千円以上の仕入を行い、当社グループが指導する商品の案内方法等を定めたアジュバンサロン契約を締結したサロンを指します。

注3「サロンアンサーシステム」

エクシードシステム株式会社(子会社)が販売する、クラウド型経営サポート(サロンの顧客管理、経営分析)システムを指します。

財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して173百万円減少し、5,077百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して99百万円減少の2,648百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の減少415百万円、売掛金の減少31百万円、たな卸資産の増加283百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して74百万円減少の2,428百万円となりました。主な変動要因は、償却等による有形固定資産の減少17百万円、コーポレートサイトのリニューアルに伴う無形固定資産の増加26百万円、減損処理などによる投資有価証券の減少96百万円によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して92百万円増加の751百万円となりました。主な変動要因は、買掛金の増加166百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少10百万円、未払法人税等の増加6百万円、未払金の減少等による流動負債その他の減少66百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して5百万円増加の472百万円となりました。主な変動要因は、リース債務の増加に伴う固定負債のその他の増加4百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して271百万円減少の3,852百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失による減少94百万円、配当金の支払による減少191百万円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて409百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には1,062百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は149百万円(前年同期比171百万円減)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失93百万円の計上、減価償却費53百万円の計上、たな卸資産の増加額283百万円、仕入債務の増加額276百万円、前渡金の支出等によるその他の増加額157百万円及び法人税等の還付額25百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は60百万円(前年同期は170百万円の収入)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出24百万円、無形固定資産の取得による支出34百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は195百万円(前年同期比8百万円減)となりました。これは主に、配当金の支払額191百万円、長期借入金の返済による支出10百万円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、75百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月20日)	提出日現在発行数(株) (2020年10月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,996,200	7,996,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	7,996,200	7,996,200	-	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2020年10月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

## (2)【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年6月21日～ 2020年9月20日	-	7,996,200	-	765,630	-	725,562

## (5) 【大株主の状況】

2020年9月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社T・Nソリューション	神戸市西区美賀多台3丁目4-5	1,012,900	12.68
株式会社ボンニー	神戸市西区櫻野台6丁目10-4	982,000	12.29
田中 昌樹	神戸市西区	939,400	11.76
中村 豊	神戸市西区	820,900	10.27
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	250,000	3.13
田中 順子	神戸市西区	223,000	2.79
アジュバンコスメジャパン従業員 持株会	神戸市中央区下山手通5丁目5番5号	200,586	2.51
株式会社日本カストディ銀行(信 託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	137,800	1.72
松井 健二	神戸市東灘区	122,100	1.53
宮澤 良彦	神戸市西区	103,200	1.29
計	-	4,791,886	59.98

## (6)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年9月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,987,900	79,879	(注1)
単元未満株式(注2)	普通株式 1,900	-	-
発行済株式総数	7,996,200	-	-
総株主の議決権	-	79,879	-

(注)1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、1単元の株式数は、100株であります。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社保有の自己株式3株が含まれております。

## 【自己株式等】

2020年9月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社アジュバンコスメジャパン	神戸市中央区 下山路通5丁目5番5号	6,400	-	6,400	0.08
計	-	6,400	-	6,400	0.08

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年6月21日から2020年9月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月21日から2020年9月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,478,313	1,062,695
売掛金	454,938	422,968
商品及び製品	638,440	888,742
仕掛品	21,532	39,261
原材料及び貯蔵品	76,851	92,564
その他	82,337	149,025
貸倒引当金	4,606	6,549
流動資産合計	2,747,807	2,648,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,137,993	1,145,397
土地	720,678	720,678
その他	456,489	469,834
減価償却累計額	651,458	689,427
有形固定資産合計	1,663,703	1,646,481
無形固定資産		
投資その他の資産	46,185	73,009
投資有価証券	526,869	430,748
その他	282,184	296,493
貸倒引当金	15,962	18,261
投資その他の資産合計	793,091	708,980
固定資産合計	2,502,980	2,428,471
資産合計	5,250,788	5,077,179
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	132,297	299,132
1年内返済予定の長期借入金	17,755	7,705
未払法人税等	9,254	15,559
賞与引当金	104,873	100,083
その他	395,244	329,192
流動負債合計	659,425	751,673
固定負債		
退職給付に係る負債	43,421	45,726
資産除去債務	15,342	13,605
長期未払金	384,470	384,470
その他	24,148	29,089
固定負債合計	467,382	472,891
負債合計	1,126,808	1,224,565

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月20日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	759,671	765,630
資本剰余金	731,374	737,334
利益剰余金	2,648,728	2,363,388
自己株式	5,833	5,833
株主資本合計	4,133,941	3,860,520
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,388	8,897
為替換算調整勘定	1,427	991
その他の包括利益累計額合計	9,960	7,906
純資産合計	4,123,980	3,852,614
負債純資産合計	5,250,788	5,077,179

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)
売上高	2,205,298	2,195,553
売上原価	950,175	890,359
売上総利益	1,255,123	1,305,194
販売費及び一般管理費	1,494,898	1,306,087
営業損失( )	239,775	893
営業外収益		
受取利息	1,869	1,961
受取配当金	19,134	2,034
受取家賃	900	900
助成金収入	1	4,991
貸倒引当金戻入額	-	821
雑収入	1,370	1,832
営業外収益合計	23,276	12,540
営業外費用		
支払利息	60	33
為替差損	2,323	3,762
雑損失	1	-
営業外費用合計	2,385	3,795
経常利益又は経常損失( )	218,883	7,852
特別損失		
固定資産除却損	2,811	1,212
投資有価証券評価損	-	100,079
その他	-	207
特別損失合計	2,811	101,500
税金等調整前四半期純損失( )	221,695	93,647
法人税、住民税及び事業税	18,150	6,539
法人税等調整額	39,523	5,982
法人税等合計	21,372	556
四半期純損失( )	200,322	94,203
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	200,322	94,203

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)
四半期純損失( )	200,322	94,203
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,785	2,490
為替換算調整勘定	1,436	435
その他の包括利益合計	3,221	2,054
四半期包括利益	203,544	92,148
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,544	92,148
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	221,695	93,647
減価償却費	56,418	53,383
株式報酬費用	11,101	1,180
貸倒引当金の増減額( は減少)	414	4,242
賞与引当金の増減額( は減少)	20,652	4,790
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	1,341	2,305
受取利息及び受取配当金	21,004	3,996
支払利息	60	33
為替差損益( は益)	2,325	3,760
固定資産除却損	2,811	1,212
投資有価証券評価損益( は益)	-	100,079
売上債権の増減額( は増加)	2,390	77,649
たな卸資産の増減額( は増加)	99,184	283,743
仕入債務の増減額( は減少)	87,383	276,454
その他	75,246	157,314
小計	237,842	178,489
利息及び配当金の受取額	21,004	3,996
利息の支払額	60	33
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	103,525	25,240
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>320,422</b>	<b>149,285</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	48,790	24,164
無形固定資産の取得による支出	11,831	34,763
投資有価証券の取得による支出	1,027	27
投資有価証券の売却による収入	246,000	-
定期預金の預入による支出	3,000	-
定期預金の払戻による収入	6,000	6,000
保険積立金の積立による支出	8,723	8,723
その他	8,547	795
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>170,079</b>	<b>60,883</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	10,050	10,050
リース債務の返済による支出	7,341	6,048
株式の発行による収入	3,880	11,919
配当金の支払額	190,416	191,069
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>203,926</b>	<b>195,248</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,750	4,199
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	358,019	409,617
現金及び現金同等物の期首残高	1,480,853	1,472,313
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,122,834	1,062,695

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当社の連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックは、2020年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)
販売促進費	152,553千円	84,308千円
役員報酬	124,139千円	122,730千円
給料及び手当	380,528千円	342,086千円
賞与引当金繰入額	115,287千円	91,653千円
退職給付費用	13,247千円	14,960千円
研究開発費	78,128千円	75,595千円
減価償却費	31,931千円	34,284千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)
現金及び預金勘定	1,025,834千円	1,062,695千円
有価証券	100,000千円	- 千円
預入期間が3か月を超える定期預金等	3,000千円	- 千円
現金及び現金同等物	1,122,834千円	1,062,695千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	190,934	24	2019年3月20日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月18日 定時株主総会	普通株式	191,135	24	2020年3月20日	2020年6月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)
(1) 1株当たり四半期純損失( )	25.17円	11.80円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	200,322	94,203
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	200,322	94,203
普通株式の期中平均株式数(株)	7,958,199	7,984,188
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-円	-円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年10月30日

株式会社アジュバンコスメジャパン

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アジュバンコスメジャパンの2020年3月21日から2021年3月20日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年6月21日から2020年9月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月21日から2020年9月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アジュバンコスメジャパン及び連結子会社の2020年9月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。